



酒田大震写真図 本町大激震烈火中人民狼狽之図(明治28年発行)

酒田市立資料館 第186回企画展

酒田大地震と新潟地震

平成26年 4/8(火)～6/23(月)



新潟地震による国道47号の地割れ(昭和39年)

開館時間

午前9時～午後4時30分

休館日

展示期間中無休

入館料

一般 100円

小学生～大学生 50円

(土日は小・中学生無料)

酒田市立資料館

SAKATA CITY MUSEUM

〒998-0046 山形県酒田市一番町8番16号 TEL/FAX 0234-24-6544

E-mail: sakata-city-museum@city.sakata.yamagata.jp

酒田大地震と新潟地震

今年、酒田大地震とも呼ばれる、明治27年の庄内地震から120年、昭和39年の新潟地震から50年にあたります。酒田ではそれ以前にも、津波を伴った天保4年の地震、文化元年の象潟地震など、大きな地震に見舞われてきました。今、こうした地震の詳細を知ることができるのは、さまざまな記録を残し、語り継いでくれた先人がいてくれたおかげです。

今回の展示では、国の震災予防調査会が撮影した酒田大地震の被害状況写真(国立科学博物館蔵)をはじめ、貴重な地震関係史料を紹介。「日本周辺3D海底地形図」「津波ハザードマップ」など、現在想定されている地震・津波に関連する資料も展示します。

決して忘れてはならない3年前の東日本大震災の記憶とともに、酒田で起きた地震の歴史を次の世代へ伝えていくことが、私たちの役目ではないでしょうか。

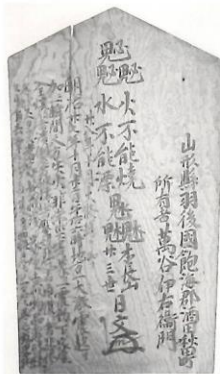
酒田大地震 明治27年(1894) 10月22日 17時35分

庄内平野東縁断層帯北部が震源と推定される直下型(内陸型)
地震規模 マグニチュード7.0

庄内三郡に被害が集中し、最も惨状を極めた酒田町では死者162人、負傷者223人に及んだ。夕飯の仕度時だったため、各地で火災が発生し、町の過半に当たる1,747棟が全焼。商業の中心地だった船場町は焼け野原となり、地震後の酒田の経済にも大きな影響を与えた。



▲ 酒田全図震災一覧



▲ 酒田大地震の惨状を伝える木札(個人蔵)

新潟地震 昭和39年(1964) 6月16日 13時1分

新潟県沖を震源とする海洋型
地震規模 マグニチュード7.5

酒田は震度5を観測し、死者1人、負傷者14人、全壊259棟、半壊480棟の被害を出した。埋め立てによる住宅造成地区、河川沿岸、砂丘海岸地区など地盤の軟弱な場所で、亀裂や隆起、陥没が生じて建物が倒壊。飯森山地区、宮野浦地区では地割が多く発生した。上水道の被害も大きく、17日から19日まで市内は完全断水した。



▲ 新潟地震で破損した上水道水道管修理の様子

酒田・庄内の主な地震の記録

- | | |
|-------------|---|
| 嘉祥3年(850) | 出羽国大地震。山谷所を変え、庄死者多し(『文徳天皇実録』)。 |
| 文化元年(1804) | 象潟地震。庄内北部と秋田県南部にわたる日本海沿岸で大地震発生。亀ヶ崎城大破。全半壊家屋1,000軒を越す。象潟が隆起し陸地となる。 |
| 天保4年(1833) | 庄内沖地震。鼠ヶ関付近が震源とみられ、鶴岡付近の被害が大きかった。湯野浜～三瀬間で津波により38人が水死。 |
| 昭和58年(1983) | 5月26日、日本海中部地震。秋田県沖を震源とし、津波の発生により飛島及び本港で漁船25隻が破損。 |
| 平成23年(2011) | 3月11日、東日本大震災。酒田は震度5弱を観測。市内全域で停電。 |

講演会「わが家に伝わる酒田大地震」

日時：4月27日(日)、5月11日(日)
午前10時～12時
(調査員による展示解説30分含む)

場所：資料館展示室

講師：萬谷和子氏 (株)萬谷専務取締役

定員：各回20名

(要申込、定員になり次第締切)

料金：無料(入館料別途必要)

※4月1日より申し込みを受け付け致します。
駐車場に限りがございますので、申し込み時にお問い合わせ下さい。

問 TEL 0234-24-6544

資料協力：石垣敬子氏、杉原丈夫氏、萬谷隆幸氏、国立科学博物館、国会図書館、酒田海上保安部、鶴岡市郷土資料館、新潟市、浜田学区コミュニティ振興会、酒田市立光丘文庫、松山文化伝承館、酒田市